

4 月 15 日（日）に行われた平成 30 年春期の情報処理技術者試験について、今回 5 回目の実施となった情報セキュリティマネジメント試験（以下 SG 試験）の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

■情報セキュリティマネジメント試験(SG)

〔平成 30 年春期の情報セキュリティマネジメント試験 統計情報〕

応募者	19,300 人
受験者	14,749 人
合格者	7,926 人
合格率	53.7%

試験結果は合格率が 53.7%で、初回からの 88.0%→70.3%→66.4%→50.4%と下降傾向が続いていましたが、初めて上昇しました。本来受験対象としている一般企業の受験者が増えてきた中で、問題の難易度もやや安定してきたことを示していると考えられます。

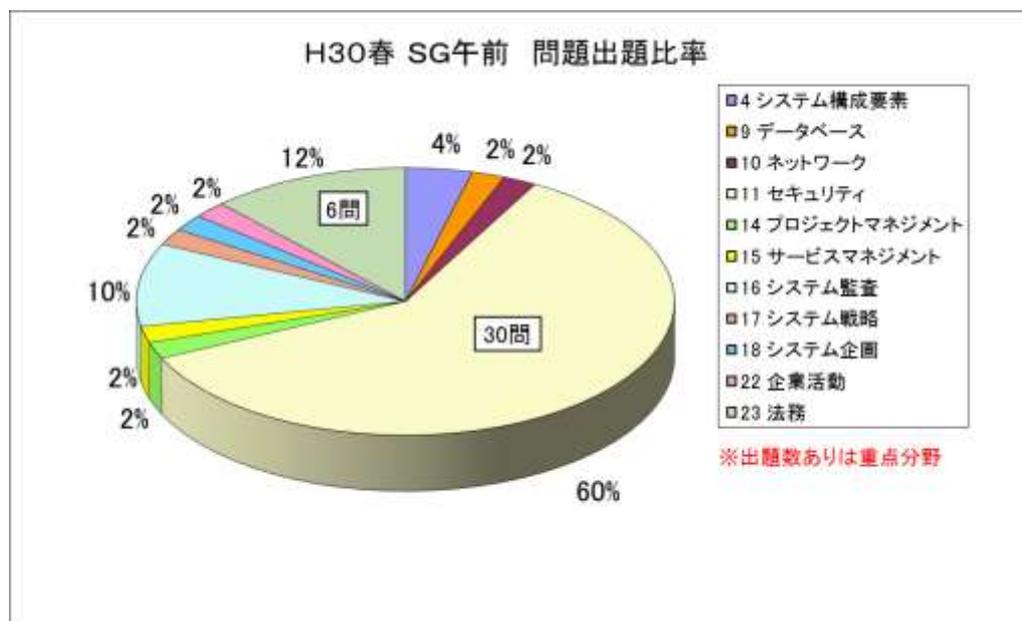
問題の難易度について、統計データから計算した午前試験の平均点の推測値は 68.7 点（初回 81.1 点→70.4 点→70.6 点→61.9 点）で前回よりかなり上昇しました。しかし、午後試験の平均点の推測値は 62.3 点（初回 81.7 点→72.8 点→68.2 点→66.1 点）で、こちらは引き続き下がっており、今回の午後試験が難しかったことを示しています。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容でまとめると、次のようになります。

〔午前問題〕

- ・今回の出題数としては、SG 試験の重点分野のテクノロジー（セキュリティ）が 30 問、ストラテジ（法務）が 6 問の計 36 問（約 7 割）ありました。その他の出題分野としてはマネジメントが 7 問（前回 8 問）、テクノロジーが 4 問（前回 3 問、システム構成要素、データベース、ネットワーク）、ストラテジ 3 問（前回 3 問）でした。
- ・新試験 5 回目の実施ですが、過去問題は前回とほぼ同じで全体の約 5 割ありました。出題された過去問題としては基本情報技術者試験が 15 問（前回 10 問）、応用情報技術者試験の過去問が 1 問（前回 9 問）あり、基本情報の過去問が増え、応用情報の過去問が減ったことが特徴的で、今回の得点が上昇した理由といえます。
- ・他の試験でこれまでに未出題されていない新傾向といえる問題は 8 問ありました。
 - 問 1 サイバーレスキュー隊（J-CRAT）に関する記述
 - 問 6 情報資産の機密性評価における判断理由（中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン）
 - 問 17 セキュリティパッチの適用漏れ防止で有効なもの
 - 問 20 ドメイン名ハイジャックを可能にする手口
 - 問 25 リスクベース認証に該当するもの
 - 問 33 要配慮個人情報として例示されているもの
 - 問 45 PaaS 型サービスモデルの特徴
 - 問 48 IT アウトソーシングで発注者が活用工程で行うこと

平成 30 年春期の情報セキュリティマネジメント試験



今回出題されたセキュリティ分野の問題の中で、攻撃手法関連の問題が 3 問ありましたが、初回の試験での出題数が 6 問あったことを考えると減っています。また、暗号化と認証の問題が 7 問と多く出題されています（前回 8 問）。

今回のほかの特徴として、文章や用語問題で JIS の規格番号を明記して出題されている問題が前回と同じで 6 問あり出題数が多いといえます。JIS 規格の 27000、27001、27002 などすべてを理解するのは大変ですが、一度は目を通して置いてほしいと思います。また、IPA が発表している「内部不正防止ガイドライン」、「中小企業の情報セキュリティガイドライン」からの出題もあり、実務でも大変参考になる資料ですので読んでみることをお勧めします。これら、規格やガイドラインの問題内容は基礎知識があれば解答を絞り込めるものもありますが、難しい問題が多いと感じられました。

〔午後問題〕

今回の午後問題の出題テーマは次のとおりでした。

問	テーマ	内容	難易度
1	個人情報の保護に関する法律への対応	個人情報保護法、保護ガイドライン、DB 項目の調査と検討、PC セキュリティ対策、マーケティング計画	やや易
2	内部不正事案	メール利用ルール、内部不正事案の発生、面談結果、事案のメール調査、原因整理、不正のトライアングル、組織における内部不正防止ガイドライン、再発防止策	普通
3	企業統合における情報セキュリティガバナンス	情報セキュリティポリシー、システム利用の変化、メールの誤送信、対策の試行、情報セキュリティガバナンス、聞き取り調査、営業員からの要望	普通

これまで問題のボリュームが増える傾向にありましたが、今回は問 1 が 10 ページ(前回 15 ページ)、問 2 が 9 ページ (前回 12 ページ)、問 3 が 12 ページ (前回と同じ) あり、やや減りました。

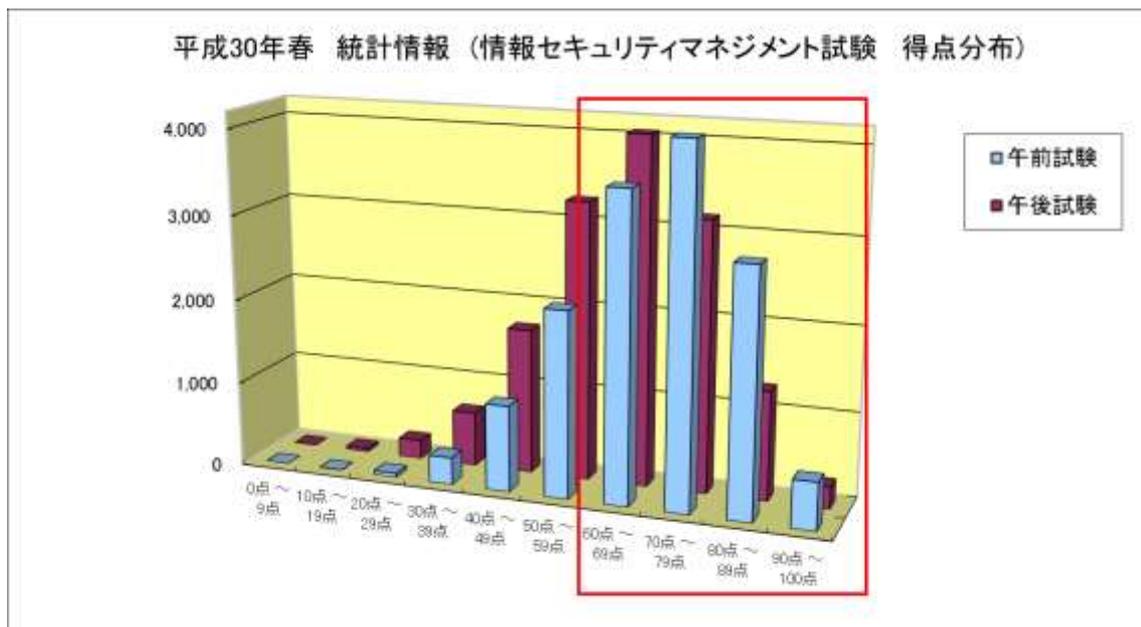
すべて問題に解答する必要があるので、問題文を根気よく丁寧に読んでいく読解力を付ける問題演習が重要です。問題ごとに解答するマーク数が異なりますが、9～10個（前回10～11個）の解答マーク数でした。選択肢は記号の組合せなど紛らわしいものが多く、選択する際には十分注意が必要です。

次回以降も同じ程度の問題ボリュームと思われませんが、1問に30分かかれることを意識して、長い説明文をあせらずに読み、内容をしっかり理解するようにしてください。問題集などで演習を解答時間30分と決めて行うことを解答の途中でやめることなく、最後の時間まで解ききるようにして、実践力を付ける必要があります。

試験センターから発表されたSG試験の得点分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

〔平成30年春期 統計情報(情報セキュリティマネジメント 得点分布)〕

得点	午前試験	午後試験
0点～9点	0	4
10点～19点	4	39
20点～29点	46	222
30点～39点	321	644
40点～49点	1,016	1,716
50点～59点	2,188	3,261
60点～69点	3,585	4,055
70点～79点	4,156	3,160
80点～89点	2,874	1,284
90点～100点	559	259
計	14,749	14,644
午前と午後の差		(105)
合格者数	7,926	合格者数との差
午前60点以上合計	11,174	3,248
午後60点以上合計	8,758	832



今回の結果を少し詳しく分析すると、午前試験で合格基準点の 60 点以上的人是は 11,174 人で、受験者の 75.8%になります。前回は 58.1%でしたので大きく増加し、今回の午前試験は前回に比べて易しかったといえます。また、午後試験が基準の 60 点以上だった人は 8,758 人で受験者の 59.8% (前回 67.6%) にあたり、こちらは引き続き減少していることから問題難易度が上がっていると思われます。

〔次回試験に向けて〕

今回の SG 試験の合格率は上昇しましたが、IT を利活用する立場で業務に従事する人のための試験ということを考えると、出題内容と試験レベルは結構難しいといえます。このため、業務で日常行われているセキュリティ対策関連の基礎知識をしっかりと理解しておく必要があります。

今後の SG 試験の難易度は現状程度で維持されると思われますが、次回の試験対策として過去の試験の出題内容を理解し、IPA で公表されているセキュリティ関連のガイドラインや事例を理解しておきましょう。また、JIS 規格については、下記のサイトで画面上だけですが読むことができますので、JIS Q 27000, JIS Q 27001, JIS Q 27002 の用語の定義部分だけでも読んでおくことをお勧めします。

<http://www.jisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html>

午後試験問題が以前難しく解答しづらい問題なので、合格点の 60 点を確実にクリアできるよう問題解決力を付ける必要があります。このため、知識がついてきたら事例への適用力を高めて、午後試験の対策をしっかりと行ってください。アイテックの参考書、問題集の活用をお勧めします。長文問題への対応力をしっかりと身につけて受験してください。